

【談話】

橋下市長に対して「慰安婦」肯定発言の謝罪、撤回と公職を辞することを求めます

2013年5月20日

緑の党・共同代表

中山均、すぐろ奈緒、高坂勝、長谷川羽衣子

日本維新の会共同代表である橋下徹大阪市長は5月13日、アジア太平洋戦争における日本軍「慰安婦」制度について、「戦争遂行のために必要だった」との見解を述べました。さらに、沖縄の在日米軍司令官に対し、風俗業者の活用を進言したことを公表しました。

橋下氏の発言は、あからさまに差別を正当化し、「慰安婦」被害者のみならず、すべての人間の尊厳を傷つける重大な人権侵害であり、到底看過することはできません。

戦時の「慰安婦」制度を肯定することは、戦争そのものを肯定することと同義です。私たちは、他国を侵略し殺し奪うことも、女性を性奴隷にすることも徹底的に否定します。

また、橋下氏は、「慰安婦が軍に暴行・脅迫を受けて連れてこられた証拠はない」との発言をしていますが、日本軍によって暴力的に強制・管理された「慰安婦」が存在したこと、また物理的強制がない場合でも甘言や強圧により本人の意思に反して集められたことはすでに多くの史料や証言からも明らかであり、重大な国家犯罪であったことは隠しようもない事実です。日本軍の責任について現日本政府が原状回復責任を負うことは、もはや国際的な見識となっています。

こうした歴史的事実を歪曲することで国家の威信を保とうとする人権感覚の欠如が、世界からの非難を浴びていることを自覚すべきです。

橋下氏の発言に対し、強く抗議し、謝罪と発言の撤回および公職を辞することを求めます。

私たちは、過去の過ちを認め、被害を与えた人々に心から謝罪し、二度と同じことを繰り返さない決意を未来に推し進めることこそ、日本の責務であると考えます。緑の党はあらゆる差別や暴力をなくし、一人ひとりの人権が尊重される社会をめざして取り組みを進めます。